

地域情報

いちごにおけるハダニの防除技術の実証試験

(一社) 熊本県野菜振興協会熊本市支部

熊本市の白浜地区は、有明海の温暖な気候を利用していちごが約6ha(17戸)余り栽培されています。県内の他地域のいちご栽培面積が減少する中、急増している「ゆうべに」をはじめ「さがほのか」、「紅ほっぺ」等が栽培されています。

しかし、いちごにおいて、ハダニは農薬抵抗性がつきやすい難防除害虫であり、多発すると収量・品質を大きく低下させ、販売高に大きな打撃を与えます。

そこで、いちごの生産安定を図るためには、効果的な病虫害防除が不可欠であり、特に、難防除と呼ばれるハダニの防除については、育苗期の徹底防除を図り、本ぼに持ち込まないことが重要です。

今回、定植直前に次の2つの異なる防除技術の実証試験を行いました。

- ①定植する苗を炭酸ガス処理(二酸化炭素濃度50~60%24時間処理)し、その後、定植します(図1)。
 - ②定植する苗をプレハブ式定温庫で、蒸熱処理(50℃で10分間処理)し、その後、定植します(図2)。
- ①、②の処理後は、ハダニの生息をゼロに抑えることが出来たので、技術の確立が期待されます。今後支部では、導入コストを比較しながら、取組みの検討を行う予定です。



図1 炭酸ガス処理(下:処理後)

図2 蒸熱処理(右:蒸熱噴霧装置)